

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	22人	国語B	22人
② 算数A	22人	算数B	22人
③ 理科	22人		

5 留意事項

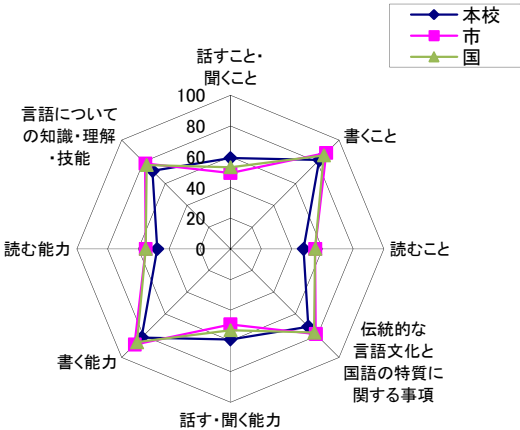
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

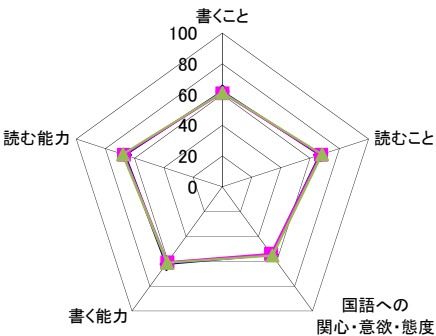
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	59.1	49.3	53.0
	書くこと	81.8	88.2	86.0
	読むこと	47.7	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.7	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	59.1	49.3	53.0
	書く能力	81.8	88.2	86.0
	読む能力	47.7	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	71.7	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	62.1	60.9	61.1
	読むこと	66.7	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	54.5	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	62.1	60.9	61.1
	読む能力	66.7	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○「読書は好きですか。」の問いに対する肯定的割合は81.8%となっており、県平均より6.7ポイント、全国平均より9ポイント上回っている。朝の読書タイム等を利用しての読書指導の結果の表れであると考えられる。また、国語の授業においては、「内容がよくわかる」「将来役に立つと思う」「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答している児童の割合がいずれも県・全国の割合を上回っており、授業に真面目に取り組んでいることがわかる。

●「国語の勉強は大切だと思うか。」という設問に対する肯定割合は81.8%と90%を超えている県・全国の平均からは大きく下回っている。また、「話の組み立てを工夫して話す」「理由が分かるように自分の考えを書く。」等については、肯定割合が県や全国の平均から大きく下回る。学習への姿勢が受け身で、自分で考えたり工夫したりといった学習活動に課題がある。解答を文章で書く問題への取り組みも36.3%が最後まで解答しなかったと答えており粘り強く頑張ることについても課題が見られる。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

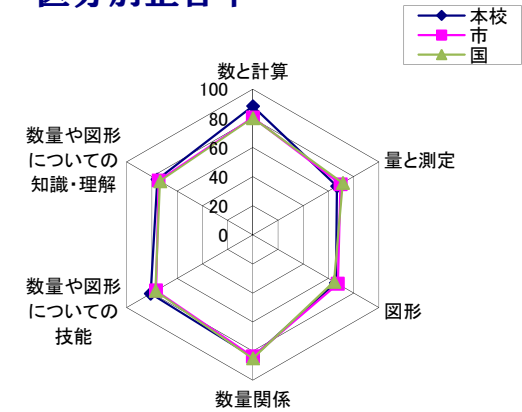
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正答率は59.1%で、市平均より9.8ポイント、全国平均より6.1ポイント上回っている。話し合いにおける提案内容の聞き方について、約6割の児童が理解している。 ●誤答した41.9%のうち、ほとんどが3問中2問以上正しく答えられていない。話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるといった聞き方について課題がある。	・国語の授業では「話す聞く」に関する単元学習において、話し方・聞き方の基本について確認し、知識としての理解を図っていききたい。 ・学級活動等での話し合いにおいて、話し方や聞き方について意識しながら話し合いに臨めるよう指導し、定着を図っていききたい。
書くこと	○B問題においては、正答率が市・全国の平均よりも上回っている。特に新聞の割り付けについて問われる問題については正答率が90.9%となっており、市・全国の正答率を大きく上回った。 ●条件作文では、提示されている条件のうち、いくつかについては触れることができても、すべての条件を満たして書くことができない児童が多い。文章と図を関係付けて自分の考えを書くという問題では、特に正答率が4割と低い。図に示された内容と文章の内容を結び付けて書く力に課題がある。	・条件を指定して作文を書くという学習を日常的に取り入れたい。朝の学習や宿題等で、決められた条件を満たして書くという経験を多くさせていききたい。 ・国語の授業の中で、文章と図やグラフなどを関係付けて読んだり書いたりする単元を丁寧に扱い、図やグラフ等を用いることの効果や文章との関係について理解させるようにしていききたい。
読むこと	○物語文の場面の移り変わりを捉える問題や説明文に示される中心となる語を捉える問題については、県・全国の平均を上回った。 ●A問題・B問題ともに正答率が市・全国の平均より下回っている。特にA問題における引用の抜き出しや登場人物の相互関係を読み取る問題において課題が見られる。	・文章中において引用はどのように書き表されているかといった読むために必要とされる基本的な知識について確認したい。 ・物語文を読む際に、登場人物の相互関係を構造的に捉えることについて指導したい。叙述をもとに登場人物同士の関係を捉え関係図に表すといった学習を取り入れ、全体を構造的に捉える力を育てていききたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みについては、正答率はいずれも9割前後であり、ある程度は定着していると思われる。 ●文中の主語を捉える問題においては正答率が40.9%と低く、県・全国の平均より大きく下回っている。文の構成についての基本的なことが理解されていないことがわかる。	・主語と述語の照応関係について、朝の学習や授業の中で意図的に取り上げ指導したい。教科書の教材文から主語と述語を取り出す活動を行ったり、ワークシートでの学習を取り入れたりして、文章を読んだり書いたりするときに主述の関係を意識できるよう指導していききたい。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

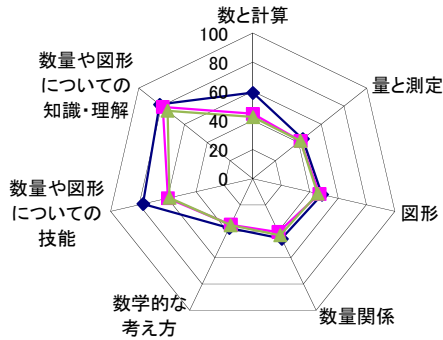
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	88.3	80.7	80.1
	量と測定	66.7	69.6	71.3
	図形	65.9	67.4	64.5
	数量関係	84.1	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	81.2	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	75.8	74.8	73.6



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	59.1	44.6	42.4
	量と測定	43.9	41.8	41.7
	図形	48.7	46.8	45.6
	数量関係	45.5	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	37.4	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	77.3	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	81.8	79.1	74.9



★算数に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○肯定割合が市よりも上回っている項目が多い。特に「算数の勉強は好きか。」では8.1ポイント、「問題を解くときにもっと簡単な方法がないか考えるか。」では3.7ポイント、「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか。」では3ポイント市の平均を上回っており、本学級の児童が意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえる。

●「授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているか。」の問いに対する肯定割合は81.8%で市の平均より4.1ポイント、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか。」の問いに対する肯定割合は86.3%で市の平均より0.9ポイントそれぞれ下回った。なぜそうなるのかについて論理的に考えたり表現したりすることに課題が見られる児童がいる。

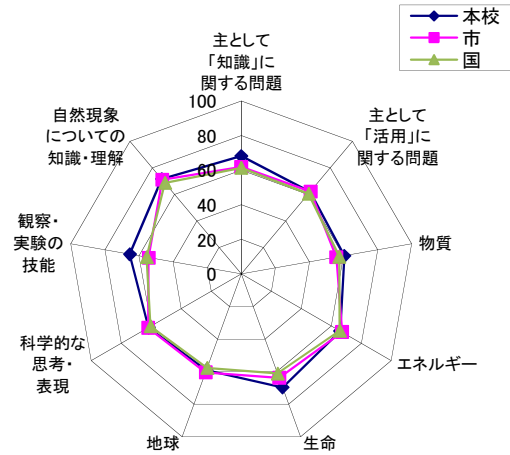
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○A問題、B問題ともに市の平均を上回った。いずれの問題も正答率が高く、特に整数・分数・小数の基本的な四則計算の技能の定着に良好な状況が見られる。	・計算については、毎日宿題としてプリントを課してきた。基本的な計算問題については常に触れている状況を今後も継続し、さらなる定着を図りたい。
量と測定	○B問題では市を2.1ポイント上回った。特に、単価の違うトマトの買い方について問われる問題の正答率は77.3%となっており、市を11.3ポイント上回った。単位量当たりの考え方については良好な状況が見られる。 ●A問題では市を2.9ポイント下回った。特に180°より大きい角の分度器を用いた求め方については正答率が50%と低く、測定する角の大きさを意識して正しく測定することに課題が見られる。	・角の大きさについて、見当を付けることはできていても、分度器を用いた測定になると、その見当した値と比べてどうか考えることができない状況が見える。見当付けをしてから測定をすること、見当付けした値と測定結果を比べて確かめることについて指導をしたい。また、180°より大きい角の測定のしかたについては、復習をして確かめたい。
図形	○B問題では市を1.9ポイント上回った。作図の方法から平行四辺形の特徴を選択する問題では市を9.8ポイント、正三角形の性質を基に周の長さから辺の長さを求める問題においては全国を26.6ポイント上回っており、基本的な図形の性質についての理解に良好な状況が見られる。 ●A問題では市を1.5ポイント下回った。円の中心と円周上の2点を頂点とする二等辺三角形の角の大きさを求める問題では市を16ポイント下回る。円の性質と二等辺三角形を関連付けて捉えることに課題が見られる。	・円の性質について理解が不十分であると思われるため、円の基本的な性質について復習するとともに、その性質を用いて考える問題等について取り上げ指導をしたい。
数量関係	○A問題では0.9ポイント、B問題では4.9ポイント市の平均を上回った。B問題の割り引き後の正しい値段を求める問題では市を6ポイント上回った。割り引きに関して、何を基準量としてとらえるかについての理解に良好な状況が見られる。 ●商品を増量した割合と増量後の量を基に増量前の量を求める問題では正答率が4.5%とほとんど正答できなかった。比較量と割合から基準量を求めることに課題が見られる。	・問題の中に示されている数量が、基準量、比較量、割合のどれにあたるのか、また「20%増量」のように示された割合を問題を解く際、どのように捉え用いるか等について、練習問題に取り組みさせることで理解させていきたい。数量関係では数直線を用いて考えることを指導してきている。再度、確認し、自分自身で問題中の数量の関係を正しく捉えらえることができるように指導したい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	68.2	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	61.8	62.2	60.5
区分等	物質	60.4	55.7	57.4
	エネルギー	65.9	67.2	65.6
	生命	69.7	63.8	61.2
	地球	59.1	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	61.8	62.2	60.5
	観察・実験の技能	65.5	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	71.6	71.1	68.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○14問の質問全てにおいて、市・全国の肯定割合を上回った。理科の学習に対する関心意欲の高さが分かる。特に「理科の勉強は好きですか」「実験や観察を行うことは好きですか」の問いに対する肯定割合はいずれも100%であり、意欲的に理科の学習に取り組んでいることが分かる。
●ほぼすべての質問において肯定割合が90%を超えているなかで、「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか。」40.9%、「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。」68.2%、「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないか振り返って考えていますか。」77.3%となっている。授業の中で、思考・表現に関わる学習活動をさらに取り入れていく必要があると思われる。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	○正答率は市・全国よりも上回った。特にメスシリンダーの名称に関する問題、物の溶け方の規則性に関する問題では、正答率が県・全国より大きく上回っている。 ●水の温まり方について、実験結果からわかることを選ぶ問題における正答率が50.0%と低く、県・全国の平均よりも下回った。実験を行う際に、予想・実験の結果・考察という過程において、実験から得られた結果を基に、より妥当な考えを導き出す力がまだ不十分と思われる。	・授業において、予想が一致した場合にどのような結果が得られるのかを見通して実験や観察を行うこと、また、実験・観察の後には結果を予想と照らし合わせて考察させることなどを意識して指導に当たりたい。 ・水の温まり方は、4学年の学習内容であるので、学習したことを復習をさせたい。
エネルギー	○振り子に関する問題における正答率は県・全国平均より上回った。ふりこ運動の規則性を調べるための実験における条件制御を問う問題では正答率が86.4%と高くよく理解されていることがわかる。 ●電磁石に関する問題では正答率が低い。電磁石や磁石の極と極との関係や、電磁石の強さや極はどのような条件で変わるのかについての理解が不十分である。	・電磁石については5学年で学習した。学習内容について復習し、電磁石の強さと極はどのような条件で変わるのかについて押さえたい。 ・ものづくりを試行した結果を基に、どのように改善したらよいかを問う出題形式である。予想通りの結果が得られなかったときに、その原因を考え、どう改善したらよいかについて考える力が必要となる。授業においては、学習のまとめ等で、得た知識をどのように活用できるかについて意識して指導に当たりたい。
生命	○正答率は69.7%で市の平均より5.9ポイント上回った。特に、メダカの雌雄を見分ける問題では正答率が95.5%となっており知識として定着していることが分かる。 ○顕微鏡の操作方法について問われる問題では、30ポイント県・全国を上回る。授業の中で顕微鏡を使った観察を行ってきたことで適切な操作方法が身に付いていると考えられる。 ●植物の成長と条件を問われる問題では、正答率が31.8%と低い。既習の知識を活用することに課題が見られる。	・学習した内容と実際の自然の事物・現象との関係に気付くことができるよう、知識や経験を日常生活へ適用する場面を意図的に設定していきたい。授業の中でも、既習の知識を生かして、児童自身に考えさせたり話し合わせたりする活動を取り入れて授業改善を図りたい。
地球	○星座と雲や雲の動きについて観察記録を基に考察する問題においては正答率が72.7%で全国平均より7.7ポイント上回った。観察の記録を時間の経過と関連付けて考える力に良好な状況が見られる。 ●全体の正答率は59.1%であり市の平均を1.4ポイント下回った。特に水が水蒸気になる現象の名称を答える問題では正答率が50%であり、理解が不十分である。	・「じょう発」という言葉の記述ができなかった児童が多かった。4学年で学習した自然界の水の変化についての内容である。機会をとらえて再度確認し、特に「じょう発」という言葉について確認するとともに、混同しやすい「水蒸気」「ゆげ」等の言葉との意味の違いについても押さえたい。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

(学習について)

○「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。」で7.2ポイント、「友だちと話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」で7.6ポイント、それぞれ市の肯定割合を上回っている。また、5年生までに受けた授業についての質問においても、「自分の考えを発表する機会が与えられていたか。」95.4%、「学級の友だちと話し合う活動をよく行っていたか。」90.9%、「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んだか。」86.4%と、いずれも話し合ったり、発表したりといった活動に関する質問で肯定割合が高くなっている。授業のなかで、意識的に言語活動を取り入れてきたことが結果につながっていると考えられる。

○家庭学習の時間については、1時間以上と回答した児童が、平日で81.8%、学校が休みの日で72.7%となっており、市を大きく上回っている。適当な量の宿題を課していることが学習時間を保障していると思われる。

●「新聞を読んでいますか。」の質問に対し、週に1～3回程度以上と回答した児童は18.2%、「ニュースを見ますか。」の質問に対しては「見る」「時々見る」と回答した児童が77.3%であり、いずれも市・全国を下回っている。世の中のことへの関心が低い様子がうかがわれる。時事問題等を課題にしたり、朝のスピーチ等で新聞記事に関するものを題材として取り上げるなどの指導の工夫を図りたい。

(自分自身のことについて)

○「将来の夢や目標を持っていますか。」に対する肯定割合は95.5%で7.1ポイント市を上回った。「学校に行くのは楽しいと思うか。」90.9%、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあるか。」95.5%といずれも肯定割合が高い。児童が、夢や希望を持ち、日々生き生きと生活している様子がうかがえる。

●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。」の問いに対する肯定割合は72.8%で市より9.8ポイント下回った。困難なことに遭遇した時に、すぐにあきらめてしまったり、逃げ出してしまうたりする様子は日々の学校生活でも見られる。がんばれたときには賞賛し、がんばってできたという成功体験を重ねていくことで、少しずつ頑張る気持ちをもてるよう指導していきたい。

(毎日の生活について)

●「家の人と学校での出来事について話をするか。」の問いに対する肯定割合は59.1%で全国を20.4ポイント下回る。学校での出来事について、家庭で話す環境づくりをしてもらうよう、保護者会等で呼びかけていきたい。

●1日当たりにゲームをする時間が1時間より少ないと回答した割合は31.8%で、市より15.4ポイント下回っている。またテレビを3時間以上見ていると回答している割合も40.9%と高い。1日にゲームをやったりテレビを見たりする時間についての約束を確認し、学年便りや保護者会等で家庭にもお願いしていきたい。